

NEWSLETTER

山陽新聞 令和7年8月24日(日)より

第3種郵便物認可

山陽新聞

選手パフォーマンス

口腔ケアで向上か



選手の心拍数や走行距離を管理している岡山理科大学のサッカー部。液体歯磨きの使用前後で数値を比較する

ズーム アスリートと口腔ケア 歯周病の原因となる細菌が血液に入り込むことで全身に悪影響を及ぼすことが近年の研究で明らかになっている。サッカー界では歯のケアもトレーニングの一部とする考えが浸透しつつあり、欧州の強豪クラブは定期的な歯科検診を導入。Jリーグでも選手をアンバサダー(大使)に起用して啓発したり、チームが歯科医院を開設したりする取り組みが進められている。

「思う」と期待し、秦監督は「理科大として、科学で効果を証明したい」と話す。同社では通常の歯磨きの仕上げとして液体歯磨きを口に含み、20秒ほどすすいだ後にブラッシングする方法を推奨。「選手が最高のコンディションで競技人生を送れるようサポートしていく」とする。(岡崎創史)

岡山理科大と医療品メーカー 歯磨き前後の体調検証

口腔ケアに力を入れると、アスリートのパフォーマンスは向上するのか。そんなテーマの実証実験を医療関連製品メーカーのメディカルクラフトン(岡山市南区古新田)と岡山理科大(同市北区理大町)が共同で進めている。同社が開発した液体歯磨きを同大サッカー部に毎日使ってもらい、体調維持やスプリント力との関係を調べる。

実証実験では、歯周病菌や虫歯菌を殺菌する「オーラルプリベント&ケア」を提供し、部員10人が6〜8月の3カ月間使用する。同部では部員の心拍数や最大速度、走行距離、疲労度の目安となる乳酸値などを専用アプリで測定、共有しており、液体歯磨きの使用前後の数値を比較することで効果を調べる。同部では近年、体調不良者が



メディカルクラフトンが開発した「オーラルプリベント&ケア」

続出し、試合でベストメンバーがそろわないという悩みを抱えていた。その要因について秦敬治監督が同社に相談。激しい運動により抗菌作用のある唾液が減少するスポーツドリンクなど酸性飲料を大量に摂取する▽練習や遠征で歯科受診が後回しになる▽といった理由が複雑に絡んで歯周病を引き起こし、コンディション不良を招いている可能性に着目した。数値の分析を行う2年坂口雄真さん(19)は「自分の体により

お口の汚れは、アスリートのパフォーマンスにも影響するかもという記事です。唾液の減少やスポーツ飲料・多忙等で口の環境が悪くなると、全身にも影響が出る可能性があります。口の健康は全身の健康にも繋がります。

いいお口の環境を保つためにも 定期検診等のメンテナンスを受けられることをお勧めします。



ISHIDA DENTAL CLINIC @STATION

いしだ駅前歯科